



第1陣
災害派遣医療チームが
出発しました！

東日本大震災

～ 福島県放射線サーベイ (測定) 活動 ～

記 放射線科
照射主任 宮川 敬

3月11日の東日本大震災発生から3日後の14日、国立病院機構本部より出動要請があり、当院でも災害派遣医療チームを編成し、福島へ支援活動に行っていました。今回の主な活動は、東京電力福島第一原子力発電所の重大事故による、放射線スクリーニング(選別)でした。

今月号では、その活動状況を報告させていただきたいと思います。

3月14日(月)

17:00 国立病院機構本部より出動要請あり。災害派遣医療チームを編成し、出発に向け準備。
20:00 DMAT車^{*1}にて出発。



*1 DMAT車

災害時(自然災害、事故災害)におけるDMAT(専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム)及び救護班に機動力を確保するための移動用緊急車両。

左から村川車庫長、山田庶務係長、当人(宮川診療放射線技師)、菊地整形外科医師

3月15日(火) 1日目

9:30 福島県庁到着。福島県災害本部のある自治会館へ移動。名簿登録。
10:10 100,000cpm^{*2}以上で除染^{*3}などのスクリーニングについての簡単な説明を受ける。
(9:50に余震があり、福島第一原発の炉心が危険な状態であることから待機)
11:30 県南部の小野町にある小野高校でのスクリーニングの指示。手袋、マスク、ヨウ素剤を配布され出発。
14:00 小野高校到着。中国電力(島根県)と合流。小野高校教諭より「体育館が被災しており、避難所にはなっていない」とのこと。災害本部に連絡して指示待ち。
14:10 災害本部より、小野町公民館・図書館でのスクリーニング指示。
14:20 公民館で約70名、隣接する図書館で60名のスクリーニング。
除染対象者なし(最大41,000cpm→脱衣して洗濯を指示)。
20:00 ミーティング(100,000cpmを超えた除染対象者3名)。

*2 cpm

放射線測定機に1分間に入ってきた放射線の数の単位。

*3 除染

放射線物質などによって着衣が汚染された際に、薬品などを使ってそれを取り除くこと。

3月16日(水) 2日目

8:00 ミーティング。
10:30 石川町総合体育館で230名(要介護者2名、新生児1名[家族3名]含む)スクリーニング。
13:00 古殿町(ふるどのまち)公民館で259名スクリーニングを実施。除染対象者なし(最大4,500cpm)。
15:00 再び石川町総合体育館に移動し、44名スクリーニング実施。除染対象者なし(最大800cpm)。
16:00 災害本部より連絡あり。郡山(こおりやま)市内ビッグパレットふくしま(多目的ホール)に応援要請。
16:30 ビッグパレットふくしま到着。国立病院機構Bチーム、金沢医療センターチームと合流。
避難所入り口でスクリーニング。除染対象者なし(最大1,200cpm)。
19:30 1,600名スクリーニング終了(測定者約10名)。
1時間後に被災者受け入れ予定の為、会場設営をしながら待機。
21:00 ビッグパレットふくしま内の被災者(要介護者)の移動支援(2階→1階)。
24:00 災害本部到着。活動報告。

3月17日(木) 3日目

- | | |
|-------|--|
| 8:00 | ミーティング。昨日の除染対象者は1名。測定終了者に「スクリーニング済証」を配布。
災害本部より、手袋、マスクの他、タイベックススーツ(放射性物質から身を守るための作業服)着用の指示。 |
| 12:00 | いわき市勿来(なこそ)高校体育館到着。住民に放射線測定の情報を知りたいため、市を通じて広報を依頼。 |
| 17:40 | 119名のスクリーニング終了。除染対象者なし(最大1,200cpm)。岩国医療センターへ向けて、出発。 |

3月18日(金)

- | | |
|------|-----------------------|
| 9:10 | 岩国医療センターに到着。活動報告後、解散。 |
|------|-----------------------|



福島県災害対策本部 緊急被ばく医療調整本部



放射線サーベイの様子



福島県内避難所



福島市内



今回の災害派遣活動を通して、大変貴重な体験をさせていただきました。派遣された会場は、ライフラインは確保されてはいましたが、どの避難所も廊下や階段の踊り場まで足の踏み場がないくらいに毛布を敷き、プライバシーもなく、目に見えない放射線と余震により、いつまでこの状況が続くのかも分からない不安な時を過ごすばかりでした。

それでも避難されている方々は皆、整然と列をなし、スクリーニングの順番を待ってくださり、非常に協力的でした。測定器を近づけると、不安そうに「大丈夫?」と聞かれ、モニターの振れない針を確認して「大丈夫です、問題ないですよ」と言った時の緊張から解き放たれた「よかったあ」の笑顔が忘れられません。

この体験を少しでも多くの人と共有していきたいと思うと同時に、私自身これまで放射線安全管理講習などを受けてきましたが、今後も引き続き教育訓練等を通して、理解を深めていきたいと思います。

最後になりますが、この度の東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さま、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。1日も早い、原発事故の終息と復興をお祈り申し上げます。